



約500年の歴史を誇る「高山茶筌」の伝統を守り、次の世代へ伝える ～茶筌の発展と茶道の振興を目指す奈良県高山茶筌生産協同組合～

■約500年の歴史を誇る伝統的工芸品「高山茶筌」

奈良県生駒市高山町で作られる茶筌は「高山茶筌」の名で知られ、国内生産量のほぼすべてを占めている。室町時代中期に高山城主の次男、鷹山宗^{たかやま}^{そうせつ}がわび茶の創設者とされる称名寺住職の村田^{むらた}珠^{しゅ}光^{こう}に依頼されて作ったのが茶筌の始まりとされ、以後その製法は代々その家の後継ぎのみに教える「一子相伝」の秘技として引き継がれ、昭和50年5月に全国で2番目（近畿では初めて）に国の伝統的工芸品^{*}に指定された。

※伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づき経済産業大臣が指定する。現在237品目で奈良県では「高山茶筌」「奈良筆」「奈良壘」の3品目が指定されている。

■茶文化に触れ優雅な時間を過ごせる「高山竹林園」

高山茶筌の伝統工芸士で構成される奈良県高山茶筌生産協同組合は、市場調査や若手後継者への技術指導など茶筌の発展と茶道の振興を目指して活動している。同組合が指定管理者として運営する「生駒市高山竹林園」は、美しく手入れの行き届いた竹林の中をゆっくり散歩することができる。他、茶筌や茶道具など竹製品が一堂に展示された資料館や日本庭園に囲まれた本格的な茶室「竹生庵^{ちくぶあん}」などがあり、高山茶筌を使って自分で抹茶を点てる「お抹茶体験」ができる。また、毎週日曜日（12月・1月第1日曜日は休み）には職人の熟練された技を間近で見ることができる「高山茶筌制作実演見学」もあり、茶筌づくりの匠と会話をしながら過ごせる時間も魅力の一つとなっている。

■伝統を守りつつ、抹茶を身近に楽しんでもらう

最盛期の昭和50年頃、高山の茶筌業者は50軒近くまで拡大していたが、以降は茶道人口の低下とともに職人の高齢化も進み現在は18軒に減少している。また、材料となる良質な竹が年々入手困難になる中、市場には安価な外国製茶筌が出回るなど業界を取り巻く環境は厳しさを増している。

一方、健康志向の高まりから抹茶が世界でブームになっており、茶道文化への興味や豊かさをもたらす質の高い製品を求める声からインターネットを通じて海外からの注文が増えているという。その中で茶筌や抹茶にもっと気軽に親しんでもらおうと、黒や白が定番だった茶筌にける糸の色をさまざまに楽しめる「色系シリーズ」を考案し、国旗のカラーやギフト用に好みの色系で仕上げられた茶筌は国内外で人気が高まっている。

同組合の理事長である谷村淳氏は「昔から茶室は“平和に会談する場”であったように、お茶を点てることでホッとする一時を味わってもらえたら。受け継がれてきた伝統を守ることと、より身近に抹茶を楽しんでもらうことの両方を大切にしていきたい」と思いを語る。（八木陽子）



（上から時計回りに）茶筌の制作工程、高山竹林園での「お抹茶体験」、ウクライナカラー（青と黄色）のウクライナ支援茶筌。売上金の一部を支援金に充てる。

【奈良県高山茶筌生産協同組合】

所在地：奈良県生駒市高山町

TEL&FAX：0743-71-3808

【生駒市高山竹林園】

所在地：奈良県生駒市高山町 3440

開園時間：午前9時～午後5時

休園日：12月27日～1月5日

TEL：0743-79-3344 / FAX：0743-79-9944

URL：https://www.tikurinen.jp